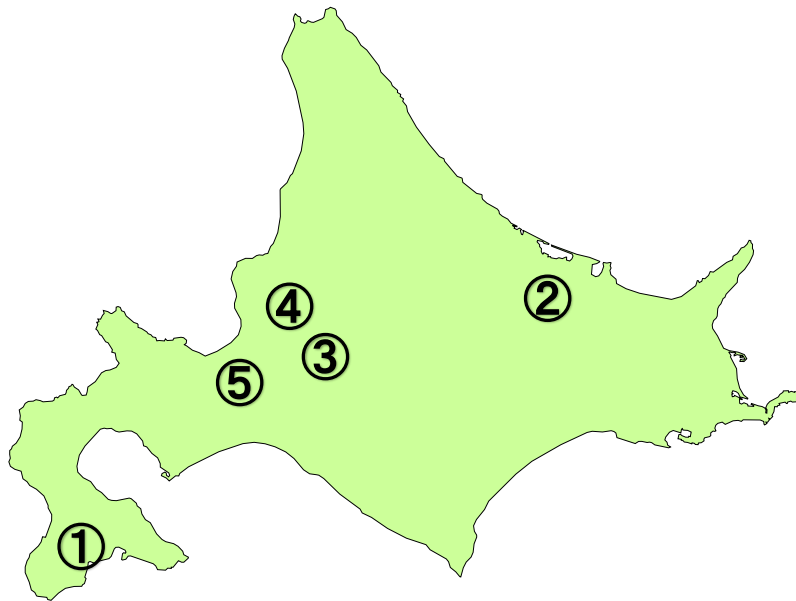


第3章 実践事例（聞き取り調査）

- 1 〔知内町〕公民館講座 まちづくりカフェ
～社会教育委員が中心となって企画する語り場～
- 2 〔訓子府町〕くんねっぷの未来づくり大会
～地域の「いいね！」を再発見～
- 3 〔夕張市〕子どもたちがつなぐ地域づくりを考える研修会
～子どもからお年寄りまで誰もが楽しめる取組を地域に～
- 4 〔当別町〕当別町小中高大生TOWNミーティング
～若い力を集めた、心躍る企画案～
- 5 〔千歳市〕住み続けたい！また来たい！応援したい！千歳
～みんなで未来を語り合う場を地域に作る～
- 6 〔広島県三次市川西地区〕
「まめな川西 いつわの里づくりビジョン」
～ビジョンづくりを通した住民の主体的な地域づくり～

実践事例（聞き取り調査）〔北海道編〕



	聞き取り調査先		概 要
①	知内町	知内町教育委員会	高校生から高齢者までカフェのようなくつろいだ雰囲気でもちづくりについて語り合う「まちづくりカフェ」
②	訓子府町	訓子府町教育委員会	町内会単位で活躍している団体が集まり、自分たちの活動を振り返り、報告する「くんねっぷの未来づくり大会」
③	夕張市	夕張市教育委員会	子ども達が地域の人と交流をしながら楽しく参加できる取組を企画する「子どもたちがつなぐ地域づくりを考える研修会」
④	当別町	当別町教育委員会	児童会役員、生徒会役員、大学生が集い、課題解決方法の学習や情報交換をする「当別町小中高大生TOWNミーティング」
⑤	千歳市	千歳市教育委員会	市民協働のまちづくりに繋がる人材育成を意識した「住み続けたい！また来たい！応援したい！千歳」

キーマンを中心に多くの関係者が情熱を持って取り組み成功に導いた事例は、学ぶべき良きお手本です。しかし、地域の歴史、気風、職業構成、住宅事情等が地域毎に異なるため、先行事例を模倣したからといって、必ずしも成功しないケースが多いのが現状です。

こうしたことから、第3章（北海道編）では、レーダーチャートにより各地域のデータを示していますので、3ページ（表1-1 地域データの項目と7段階の分け方）を参考とし、お住まいの地域データと比べながら御覧ください。なお、本調査報告書におけるレーダーチャートは、「外に行くほど（データ値が大きいほど）良い」ということを示すものではなく、各地域を総体的に見るためのものです。

1 「知内町」公民館講座 まちづくりカフェ

～ 社会教育委員が中心となって企画する語り場 ～



自分たちの町には
こんな財産がある、
こんな宝があると
町民と共有する場です。

(知内町教育委員会 担当者)

01



社会教育委員や中高生の活躍

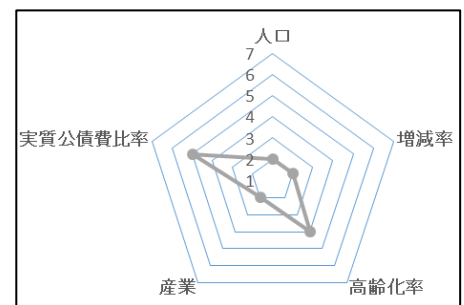
事例の主体

名称	知内町教育委員会社会教育課社会教育係
連絡先	住所：〒049-1103 知内町字重内 21 番地 1 TEL：01392-5-6855 FAX：01392-5-5072

知内町の概要



人口	4,388 人 (平成31年1月1日時点)
面積	196.75 km ²
特徴	ニラ・トマトなどの施設型園芸作物や水稻・畑作と酪農を組み合わせた複合経営を主体に農業振興を行っており、漁業では「知内かき」が有名。



レーダーチャートの見方は P3 参照

事業の実際

1 概要

郷土を思い、まちづくりに参画する機運の向上と地域間交流を図ることを目的として、社会教育委員の会と教育委員会が主催となり、平成 28 年から中学生から高齢者まで様々な職種、立場の町民約 50 名が参加し、年 1 回開催している。

令和元年度は、「知内に残ってもらう、戻ってもらうには」をテーマに開催した。

2 組み立てていく上で担当者が重視していること

〔聞き取り調査等による地域の実情やニーズの把握〕

テーマについて社会教育委員の会で徹底的に議論し、実施後には事業検証を行っている。

〔地域住民が中心となって事業を展開〕

受付から進行まで全てを社会教育委員が行い、当日は中高生も参加している。学校の協力が大きく、積極的に声をかけてくれている。教育委員会は、生徒の弁当の用意と送迎を担当している。

3 実施する上で担当者が難しいと感じていること

参加者の固定化の解消と、短時間で作ったプロセスを具体的な施策に落とし込んでいくこと。

4 今後の方向性

継続性のある取組とするために、「社会教育委員の会としてどのようにまちづくりに関わっていくべきか」を学ぶ機会を設定する。外部講師を呼んで意見を伺い、研修会を開催する予定。



02

詳しく聞いてみました！



知内町教育委員会
社会教育課社会教育係
係長 堂前 哲也 氏



03



04

ー 実施することになった経緯を教えてください。

町長や副町長等が出向いて町に対する住民の思いを聴く、「まちづくり懇話会」を全 13 町内会で実施していた様子を見ていた社会教育主事の発案で始めました。町の意見を吸い上げるという土壌ができていたことは大きかったと思います。

ー 「まちづくりカフェ」は当日どのように進められているのですか。

話し合いのテーマは社会教育委員の会議で徹底的に議論して決めています。

当日のファシリテーターも社会教育委員さんが行います。事前に、「ファシリテーターとはどういうものなのか」、「ワークショップはどう進めていったらよいか」等細かな点まで打合せをしています。皆さん、本当に一生懸命です。

ー 出された意見で実現したものはありますか。

「こういう意見が出たので、これをやろう」とは、なかなかできません。でも、どんな意見が出されたかを職員間で共有していて、職員の意識は変わってきています。「こういう意見があるんだ。では自分たちは何をしていかなければならないか」と考えています。

ー 継続している理由は何だと思われますか。

中高生の活躍だと思います。中高生といっても、とてももしっかりとした考えを持っていて、アイデアも奇抜で、すごく面白い意見が出てきます。大人がはっと気付かされるような。中高生がこの事業のキーマンになっていると思います。

(聞き取り調査実施日：令和元年 11 月 21 日)

01 ワークショップ形式での話し合い。各班に 1 名以上社会教育委員がつき、意見をまとめる。

02 キーマンになっている中高生。

03 中央公民館。公民館全体を図書館と捉えており、夕方くらいになると中高生から奥様方まで多くの方々が集まる町の交流スペース。

04 会場にはジャズが流れ、参加者は飲み物や菓子を口にしながら終始和やかに協議が進んだ。

(写真 01～04)

Interviewer's voice

地域住民が企画・展開し、中高生がキーマンとなって地域に対する想いを発信していることが印象的な事業です。社会構造の急速な変革が見込まれる中、「何が本当に必要なのか」と、未来を担う若者を中心に考えることの重要性を感じます。

2 「訓子府町」くねっぷの未来づくり大会

～ 地域の「いいね！」を再発見 ～



自分たちの活動を
振り返る時間や機会が
とても大切です。

(訓子府町教育委員会 担当者)

01



小さな工夫の積み重ね、町部局との連携

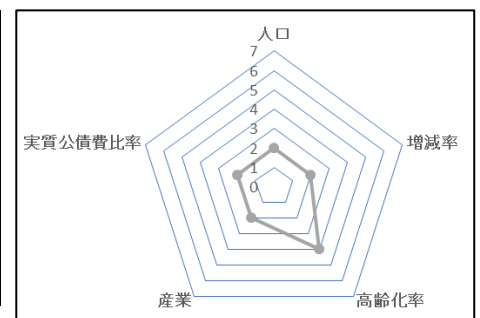
事例の主体

名称	訓子府町教育委員会社会教育課社会教育係
連絡先	住所：〒099-1498 訓子府町東町 400 番地 TEL：0157-47-2121 FAX：0157-47-4174

訓子府町の概要



人口	4,968 人 (平成31年1月1日時点)
面積	190.95 km ²
特徴	農業の一戸当たりの平均経営面積は 18.61 ha であり、限られた面積の中で生産性の高い経営が展開されている。内陸に位置しており、日照率が高い地域。



レーダーチャートの見方は P3 参照

事業の実際

1 概要

地域課題・生活課題の解決を図る学習機会を充実させることを目的に平成 26 年から年 1 回開催している。

令和元年度は、町内会単位で活動している団体に集ってもらい、活動の発表と振り返りを行った。70 名程度の参加があり、町内で行われている様々な活動を知り、興味を持つ機会となった。

2 組み立てていく上で担当者が重視していること

〔継続性のある取組とするための工夫〕

記入しやすい申込書の作成や、進行方法を町民に合わせるなど、事務局が柔軟に対応している。また、町部局と連携して実施することで、長く地域に定着する事業を目指している。

〔振り返りの場の設定〕

様々な活動をしている方がいるが、その良さを認識して活動している方は少ない。他者から褒められたり、アドバイスをもらったりすることで、自分たちの活動をモジュール化できる。

3 実施する上で担当者が難しいと感じていること

近隣の自治体と連携することは、ベクトルが同じでもスケジュールを合わせる 것이難しい。

4 今後の方向性

他市町村の活動を視察に行きたいという声がある。今後も住民の声を吸い上げながら進める。



02



03

詳しく聞いてみました！



訓子府町教育委員会
社会教育課社会教育係
係長 桜井 朋子 氏

ー 当日は、どのように進められているのですか。

御自身で発表するのはすごく恥ずかしいという世代の方が多いので、事前に取材に行って、当日はその様子をスクリーンに映しながら、団体のメンバーや会を主催している方々にインタビューをします。皆さん、「大したことやっていないのに人前で発表なんて」とおっしゃるので、「発表は私たちがさせてもらうから、当日インタビューだけさせて」とお願いしています。

ー 成果と感ずることにはどんなことがありますか。

事業後、「ここで話し合ったこと、地域の人に話すわ」とか「(発表されたことを) 知らなかったから、誘い合って行ってみるわ」とか声をかけてくださると、次に繋がったなど、とても嬉しくなります。地域の人から活動内容をアナウンスしてもらうと心に届きやすいし、受け取りやすいと感じています。

ー 毎年たくさんの方が参加されていますが、周知方法で工夫されていることはありますか。

まず、申込書は最大5名まで名前が書けるようにしています。「一人だと参加しづらい」とおっしゃる方も、仲間同士だと参加しやすいようです。また、本事業は福祉保健課とタッグを組んでいます。公民館に来てくださる方と福祉保健課に関わっている方は微妙に違うので、広い範囲で声をかけることができています。

ー 取組を進める上で重視していることはありますか。

自分たちの活動の良さを認識して活動されている方はとても少ないので、きちんと自分たちの活動を振り返ることがとても大切だと感じています。

また、社会教育課は学習を支援する課であり、町部局では地域課題を解決していく取組を進めています。地域課題を解決していく取組が学習と結び付くことによって持続可能な取組になると思っています。事業に関わる町部局の方達に、社会教育と一緒にやれば、なんだかうまく住民を巻き込めるなど、そういう意識を持っていただき、一緒に事業を展開したいと思っています。なので、日頃から「一緒にやろう」と声をかけるようにしています。

(聞き取り調査実施日：令和元年 12 月 10 日)

- 01 話を聞いて良い取組だと思っ
たら、参加者はパンフレット裏に印刷
された「いいね」マークを挙げる。
- 02 移住してきた参加者がとても良い
刺激を与えている。住民が地
域の良さを再認識する場に。
- 03 訓子府町公民館。保健師さんとも
連携しながら進めている本事業。社
会教育とは違う、地域への入り方を
する保健師さんから学ぶことは、と
ても多いという。

(写真 01～03)

Interviewer's voice

担当者の細かな配慮と工夫が際立つ事業です。多くの方が参加しやすいような工夫、参加者同士が話しやすい配慮・・・参加者目線に立った「ぬくもりを感じる事業」だと感じました。

また、本事業に関わらず日頃から他部局と連携した取組を展開していることが、本事業を一層奥深いものとしていると同時に、継続的な取組として感じます。

3 「夕張市」子どもたちがつなぐ地域づくりを考える研修会

～ 子どもからお年寄りまで誰もが楽しめる取組を地域に ～



みんなの力を合わせれば
「出来る」という雰囲気にな
っていきました。

(夕張市教育委員会 担当者)

01



事業に関わった人の意識の変化

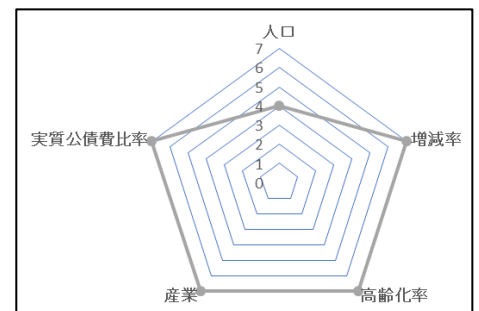
事例の主体

名称	夕張市教育委員会教育課
連絡先	住所：〒068-0492 夕張市本町4丁目2番地 TEL：0123-52-3131 FAX：0123-52-1054

夕張市の概要



人口	8,033 人 (平成31年1月1日時点)
面積	763.07 km ²
特徴	夕張メロンの産地として知られる。北海道の中央部に位置し、かつては石狩炭田の中心都市として栄えたが、平成2年までに全て炭鉱が閉山した。



レーダーチャートの見方はP3参照

事業の実際

1 概要

住民同士の繋がりを深め、地域について考えるきっかけとなるよう、大人と子どもが交流できる取組を企画する研修会を平成30年から開催している。平成30年度は「生涯学習推進専門講座（北海道立生涯学習推進センター主催）」を活用し、令和元年度は「幸福の黄色いハンカチ基金」を活用した。

2 組み立てていく上で担当者が重視していること

〔聞き取り調査等による地域の実情やニーズの把握〕

参加者全員に事前アンケートを実施。地域に対する想いを把握するところから始めた。

〔事業に関わる人との方向性の共有〕

ゆうばり再生市民会議、PTA 連合会、教育委員、社会教育委員など、様々な団体や個人と連携をしながら進める必要があったため、ベクトルを合わせることに時間を費やした。

3 実施する上で担当者が難しいと感じていること

事業予算等、必要な経費を確保することが難しい。参加者の送迎だけでもできるとよい。

4 今後の方向性

研修会で話し合った内容をどのように具現化させるか検討しているところ。住民から「こういうことができるのではないか」という提案が出るようになってきたので、必要に応じて研修会を継続させていく。



詳しく聞いてみました！



夕張市教育委員会
教育課社会教育主事
立花 克一 氏



02

ー 研修会のテーマについて教えてください。

「地域の方々が集まって、一緒に行えるイベントの企画をしましょう」というのがテーマです。参加者の勉強会であり、同時に企画を通じて地域のことを知ってほしいという思いがありました。

また、もちろんテーマに沿って話し合いを進めていくわけですが、こうして市民の方々が集まって、まちの将来を語るという機会がなかったので、こうした場面を作れたということが大きかったと思います。

ー 事業を組み立てていく上で重視したことはありますか。

参加者に対して事前に学びたい内容や知りたいこと、特技等について聞くアンケートを実施しました。アンケートの結果から、「この研修会を通じて、色々な人の考えに触れたい」という方が多いと分かりました。地域の実情やニーズの把握は、事業の方向性を決める上でも重要でした。

ー 事業を実施することで、何か変化はありましたか。

はい。最初は地区毎で考え方にばらつきがあり、意見を出すことに消極的なところもありましたが、回を重ねていくと、みんなの力を合わせれば出来るという雰囲気になっていきました。担当者としても、ものすごく気持ちに変化していき、地域のことについて考えさせられました。この研修会を始めるようになり、地域の方々のところに足を運ぶ回数が増えました。自分にとっても良い研修会になったと言わざるを得ない、そういった思いです。

(聞き取り調査実施日：令和元年 12 月 4 日)



03

01 グループ内で「地域に働きたいこと」、「取組で期待される効果」等を書き出して整理し、企画書にまとめて発表した。

02 参加者から出されたアイデアのひとつ。社会福祉協議会主催のイベントで実現させたすごろくゲーム。

03 外部講師に指導してもらいながら企画案を深める回も。研修会には、夕張市 PTA 連合会、教育委員会、夕張再生市民会議が運営をし、教育委員、社会教育委員等が参加。

(写真 01～03)

Interviewer's voice

地域での学びのきっかけづくりとしては、「身近で目的を共有しやすいテーマを設定すること」が有効だと言われています。本事業のテーマは、とてもシンプルです。わかりやすいテーマを設定し検討する中で、自信がつくとともに、新たな地域課題が見つかり、取組に対する意識が変化していったことがわかる取組だと思います。

4 〔当別町〕当別町小中高大生 TOWN ミーティング

～ 若い力を集めた、心躍る企画案 ～



1 度目の壁は
関係者間の方向性の共有、
2 度目の壁は
マンネリ打破。

(当別町教育委員会 担当者)

01

One Point!

学校と行政の連携

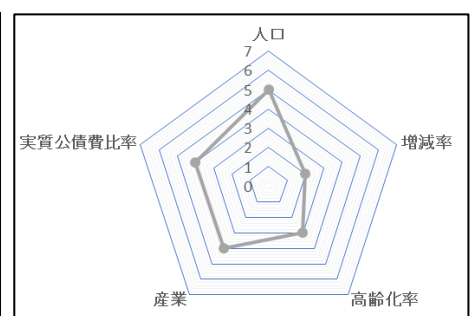
事例の主体

名称	当別町教育委員会
連絡先	住所：〒061-0292 当別町白樺町 58 番地 9 TEL：0133-22-3834 FAX：0133-23-3114

当別町の概要



人口	15,963 人 (平成31年1月1日時点)
面積	422.86 km ²
特徴	札幌から約 45 分の近距離に位置しており、管内有数の米の生産量を誇るとともに、切り花の生産が盛んで、道内屈指の生産額となっている。



レーダーチャートの見方は P3 参照

事業の実際

1 概要

当別町内の小中高等学校の児童会・生徒会役員と北海道医療大の学生が集い、課題解決方法の学習や、他校児童・生徒との情報交換を通じ、各学校の活動や地域との関わりについて考え、リーダーとしての資質向上や児童会・生徒会活動の活性化を図ることを目的に平成 20 年から年 3～4 回開催している。

令和元年度は、来年度実施する 150 周年記念イベントについてアイディアを出し合った。

2 組み立てていく上で担当者が重視していること

〔事業に関わる人との方向性の共有〕

学校と連携する場合、学校側の都合やねらいも配慮しながら進めることが必要。また、運営者の意識の方向性を合わせておけば、進め方で個性が出て、高い効果を得ることができる。

〔テーマ設定と時期の見極め〕

地域全体で取り組むテーマというものが時期によってある。そうした機会を見逃さないこと。

3 実施する上で担当者が難しいと感じていること

評価指標及び数値の設定が難しい。参加者数は、本当の意味での目標数値にはならないと思う。

4 今後の方向性

来年度は令和元年度と同様のテーマで取り組む。今後もテーマ設定を工夫しながら継続していく。

詳しく聞いてみました！



当別町教育委員会
社会教育課生涯学習係
主任 下村 兼生 氏

ー 12年間続ける中で、やり方を変えたことがあれば教えてください。

まず、テーマ設定の仕方です。最初の2年間は、ノーテーマで進めていたのですが、輪郭が描けず、話し合いが停滞することもありました。そこで、3年目からある程度テーマを絞って目指すところを提示するようにしたところ、具体的なアイデアが出るようになりました。

あと、学校に協力をしてもらっているのも、ある程度方向性が決まったら、「子ども達からこんな意見が出たので、こういうことをやりたいと思っています」と丁寧な説明をするようになりました。最初はそれがちょっと出来ていなかったもので、反省です。

ー 担当者はずっと同じ方ですか。

いいえ。最初の2年間は副担当、次の3年間は主担当、その後5年間企画課に配属になり、戻ってきました。

こういった事業は複数の担当者で進めることが特に大切です。一人の担当者だけで進めると、異動になった際に経緯がわからず積み重ねたものが振り出しに戻ってしまうからです。また、事業を進める上でベースとなる運営マニュアルは大事だと思います。きちんと可視化できるようにする。趣旨をしっかりと捉えて事業に臨まないと、その事業が「交流をして終わり」になってしまいます。

ー 事業を継続する中で難しいと感じた時期があれば教えてください。

難しさを感じた1度目は、3年目です。関係者間で方向性の共有がうまく出来ず、難しい時期がありました。こちらの意図を丁寧に伝えることで、うまくいくようになりました。

2度目は、自分が企画課に配属になっていた8年目～10年目くらいです。その打破は、150周年事業という、まちぐるみの取組でした。こうした取組が必要なタイミングが必ずあると思います。成果を出しやすい時期もあって、何も無い時期もあって、でも止めないで続けていたら、必要な時がきます。

また、目指す姿は3年スパンとか5年スパンで考えるのもいいですね。たとえ目指す姿が叶わなかったとしても、あったほうが良いです。

(聞き取り調査実施日：令和元年12月18日)



02



03

01 PR動画の作成(小学生)、音楽フェスティバル(中学生)、姉妹都市との交流事業(高校生)、150周年記念メニュー(大学生)が提案された。

02 子ども達の自主性を尊重しながら進めているワークショップ。

03 実現が決まった大学生のアイデア。当別の食材を使った150周年メニューを開発し、道の駅で販売予定。

(写真01～03)

Interviewer's voice

平成29年の社会教育法の改正を背景に地域と学校の連携・協働が広がりつつあります。

本事業はこうした動きが広がる約10年前から始まっており、テーマ設定や継続させるための手法や考え方が大変参考になると思います。

5 「千歳市」住みたい！また来たい！応援したい！千歳

～ みんなで未来を語り合う場を地域に作る ～



多数決ではなくて、
みんなが納得しながら
進んでいくことが
鍵になる。

(千歳市教育委員会 担当者)

One Point!

01

既存事業や既存団体を活かす

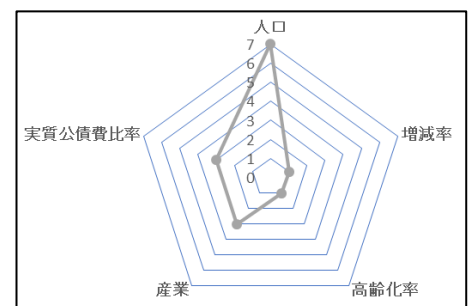
事例の主体

名称	千歳市教育委員会教育部生涯学習課生涯学習推進係
連絡先	住所：〒066-8686 千歳市東雲町2丁目34番地 TEL：0123-24-3153 FAX：0123-27-3743

千歳市の概要



人口	96,382人(平成31年1月1日時点)
面積	594.95km ²
特徴	石狩平野の南端に位置し、国立公園支笏湖や清流千歳川などの自然に囲まれた住環境と陸・空の交通アクセスや生活利便性が優れた中核都市。



レーダーチャートの見方はP3参照

事業の実際

1 概要

市民協働のまちづくりにつながる人材育成及び市民活動の活性化を目的としている「みんなで、ひと・まちづくり委員会」による自主活動事業。

平成30年度はテーマを「住みたい、また来たいまちづくりの実現」とし、勉強会や企画会議を重ねながら、パネルディスカッションや、来場者との意見交換を行う参加型事業を実施した。

2 組み立てていく上で担当者が重視していること

〔現状と課題を把握し、共有すること〕

現状やニーズに合わない事業を実施しても効果が薄いことから、企画部企画課職員に講師をお願いし、千歳市の現状や課題を把握する学習会や委員による勉強会を実施した。

〔事業に関わる人との方向性の共有〕

事務局と委員が同じ方向を向き、同じビジョンを描くことに多くの時間を費やした。

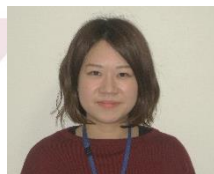
3 実施する上で担当者が難しいと感じていること

評価指標及び数値の設定。こうした事業の実施期間を、「いつか芽が出るように仕掛けをする時期」と捉えると、「市民が何人集まったか」、「何回事業を実施したか」等の数では成果が計れない。

4 今後の方向性

連携すると一層効果が高いと考える他部局や市民団体が実施している事業との連携講座の開催を検討する。

詳しく聞いてみました！



千歳市教育委員会
教育部生涯学習課生涯学習推進係
主任 川崎 美幸 氏



02



03



04

- 01 発表を聞いて、「こういう発見があった」、「こうしたら良いのでは？」という意見や感想を一般市民がパネルに貼り付けていった。
- 02 たくさんの写真を使って活動内容を紹介。
- 03 当日は、委員を含め約 60 名が参加。募集は、市内外問わず行い、誰でも参加可能とした。
- 04 「一人で話すより、話す方も聞く方も楽しいと思う」という委員からの提案で実現した、活動内容を紹介するパネルディスカッション。

(写真 01～04)

ー 「みんなで、ひと・まちづくり委員会」について教えてください。

市民自ら企画する地域づくり、人づくり、まちづくり等を行う人材の育成及び市民活動の支援を目的として平成 16 年から設置していて、委員の任期は 2 年です。委員は、団体、企業、NPO の役職員、学校関係者、市民活動の経験者等で構成されています。本事業は、委員会の自主活動事業として実施しました。

ー 参加者を募集するに当たって、工夫したことはありますか。

普段の教育委員会主催事業については、情報誌の告知欄への掲載に留まりますが、この事業については、A4 カラー両面刷りのチラシを折り込み、周知しました。ポスターやホームページだと情報を目にする人が限られてしまいますが、情報誌の折り込みであれば、別の目的で読んでいて、見つけることもあると思います。あと、今年度実施した市民講座に関しては、スタンプを導入して、3 個スタンプが集まったら修了証をもらえますと宣伝してみたら、熱心に参加してくれました。

ー ポイントとなった出来事がありますか。

最も大きかったのは、委員勉強会だと思います。話し合いを繰り返していた時、「一度みんながどんな活動をしているのか勉強会をしたい」と委員さんから提案がありました。それで、事務局が立てていたスケジュールは一度白紙に戻し、勉強会をしました。そこでお互いの活動がわかるとともに、千歳市の魅力について再確認することができ、目指す方向がひとつになりました。

ー 進める中で難しいと感じることはありますか。

千歳市は、人口は増えていますが、自衛隊があり、転出入が多いという特徴があります。地域づくりとなると難しいところが出てきます。たとえ人口が減っていても、地域のことをよく知っている人がいる、そういう強みを持った市町村も北海道にはあると思います。

ー 継続させるために考えていることはありますか。

縦割りではなくて、みんなで共有しながら進める必要があると思っています。あまり「これは社会教育」、「これはまちづくり」と分けて、他部局と繋がっていくことができれば、情報の共有ができて継続するのではないかと

(聞き取り調査実施日：令和元年 12 月 13 日)

Interviewer's view

既にある「地域の宝＝人や活動」を活かしながら新たな取組へ繋げていく事業です。様々な地域でもアレンジが可能な事業だと思います。

実践事例（聞き取り調査）〔広島県編〕



↑ まちづくりビジョンが一目でわかる「川西将来構想図」

	聞き取り調査先	概要
⑥	広島県 川西自治連合会	まちの将来像とその実現方策を住民自ら描くことを通して実現した、地域力を活かしたまちづくり

第3章（広島県編）では、まちづくりビジョンの作成を通して多くの人々の力を引き出し、地域に住むことへの誇りと生きがいを生み出すことに繋がった広島県三次市川西地区の事例を紹介します。

6 〔広島県〕「まめな川西 いつわの里づくりビジョン」

～ ビジョンづくりを通じた住民の主体的な地域づくり ～



住民の多くは地区外へ働きに出る第2種兼業農家



川西のマスコット、河鹿（かじか）ガエル。カエルをマスコットにした理由には「ふるさとに帰る」、「住みよい川西に変える」という思いが込められている。

地域の現状



広島県三次市川西地区の位置

川西地区は、中国地方内陸部、三次市中心部から本地区中心部まで約 15km の南部に位置し、旧双三郡川西村域の三若町、海渡町、石原町、上田町及び有原町の 5 つの町で構成された川西小学校区を区域とする地区である。戦後、5 つの町内会ごとにまちづくりが進められており、昭和 28 年に設立された「川西村公民館」を核とした公民館活動がベースにある。

人口は、1,049 人（平成 31 年 1 月 1 日現在）。このうち高齢者（65 歳以上）は 519 人、高齢化率は 49% となっており、人口減少と高齢化の進行が同時に生じている地区である。

こうした中、「こがなところに子に帰れゆうても、わが代で終わりも仕方ない。けれど、住みたい。誇りたい。このままではいけない！」という想いを抱いた地域住民が、議論を重ね、ビジョンの作成をきっかけとして「自分たちの地域を自分たちで守ろう」という機運を高めていった。

取組の概要

チームづくり

ビジョン推進の専門組織として「里づくり委員会」を設置し、研究会やワークショップ、調査等を行っている。メンバーは、町内会選出委員と公募委員で構成されており、老若男女半々（男性 8 名、女性 8 名）としている。

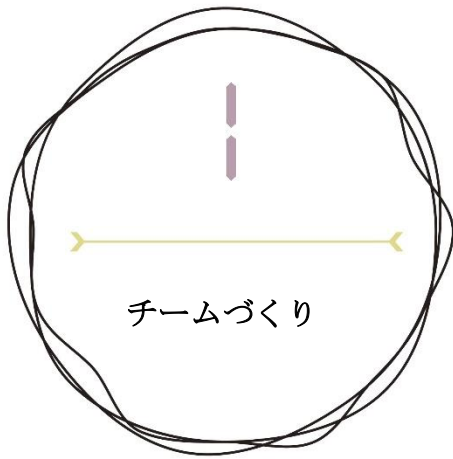
現状や想いの把握

地区についての思いや現状を把握するため、1 世帯 1 枚ではなく 1 人 1 枚（※ アンケート用紙を配布し、調査を実施した。また、関係機関（農協、学校、消防団等）へのヒアリングや現地調査も実施した。

（※）中学生未満と後期高齢者を除く

ビジョンの作成

平成 18 年 3 月に「まめな川西いつわの里づくりビジョン」を策定。その後、平成 28 年 3 月に第 2 次を策定し、現在も住民ワークショップを定期的に開催し、進捗状況の把握や今後の展開について検討している。



チームづくり

様々な計画やビジョンの策定メンバーは、年配の男性が多くなりがちだが、川西地区では、これからの地域の未来を担う若者や発信力強い女性を積極的に取り込み、老若男女半々で構成している。ビジョンをイラスト化した構想図

(P26 参照) は、策定委員の女性が描いたもの。メンバー構成を工夫したことで、委員からの意見はビジョンの内容に関することに留まらず、地域のエピソード集「へ〜book」や、SNS で発信している動画「君のいるまち川西」等、様々なプロモーション活動へ広がっている。

また、住民の地域に対する想いを引き出すための

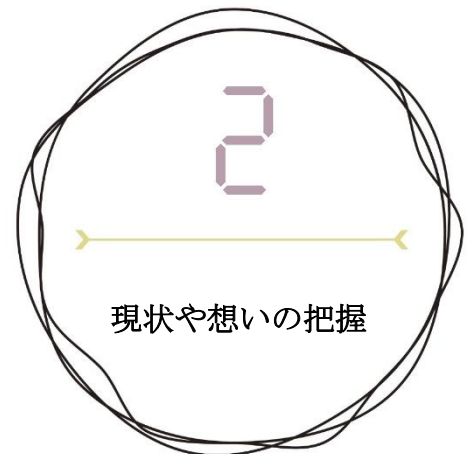
- ・ まちづくりビジョンアンケート や、

現状を詳しく把握するための

- ・ 地域の匠調査
- ・ ソウルフード調査
- ・ 空き家調査 等、様々な調査を実施し、

約 50 の関係機関、団体へのヒアリングを行った。

住民一人ひとりの声が反映されたアンケートを集約してできたのが、川西地区の将来像が描かれた「まめな川西いつわの里づくりビジョン」である。

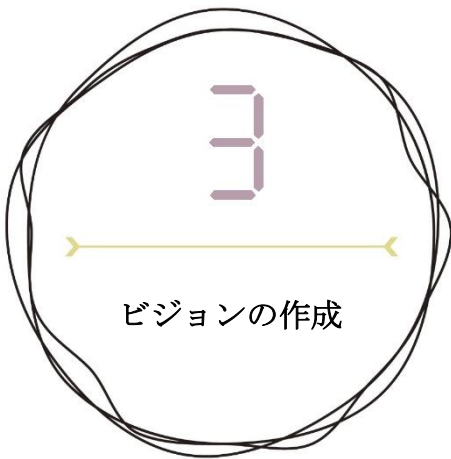


現状や想いの把握

さらに、「まめな川西 いつわの里づくりビジョン」

(<https://www.city.miyoshi.hiroshima.jp/data/open/cnt/3/3680/1/kawanishi-vision2.pdf?20191121151949>) は構成、イラスト、デザインなど、全て地域住民の手作りで作成されている。住民の力と知恵を結集したビジョンは、その後、地域づくりの場を提供し、多くの人の力を引き出すことに繋がっている。

「川西地区には多種多様な特技を持つ方がおられます。このような人たちが、『できるときに、できることを、できる者がする』人口は昔より少なくても、地域に関わる人口を増やすことにはまだまだ伸び代があると思います。」そう語る福永会長を中心に、川西地区の挑戦はまだまだ続く。



ビジョンの作成



Kaname Fukunaga

三次市生まれ。広島商科大（現広島修道大）卒。三次市職員を経て 2005 年 4 月から川西コミュニティセンター長、2017 年 4 月から川西自治連合会会長。川西郷の駅取締役、NPO 法人ほしはら山のがっこう顧問、三次市社会福祉協議会理事、みよし田舎ツーリズム協議会会長も務める。